

「中秋の4時間戦！」



ついにこのクラスも新規格！ #13



1Lap 及ばずの2位！ #10



旧規格の牙城 #28



愛工大2号車は4位入賞 #12

K耐久東海シリーズ2015はいよいよ天王山となる4時間戦。前日までの予報とは違い午前中はウエットだったが、K耐久が始まるころはドライコンディション。同日に西の方で行われた、ワールドチャンピオンたちにも決して負けていないアツいバトル、Kの耐久シリーズでは世界一ともいえる戦いが今始まる！

「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

このシリーズ始まって以来最高となる14台がエントリー。ノーマル+αというチューニングではあるが、バトルは真剣というコンセプトが受け入れられてきたきたのだろう。

チャンピオンを争う#28「LIMITLINE トゥディ」が今回もレースを引っ張るか。速くなってきた新規格マシンを2台投入してきた愛知工科大学にも注目。

■予選

今回も予選トップは#28「LIMITLINE トゥディ」1' 09.633、今回ただ一台の10秒切りでさらにタイムアップ。予選2番手は約一秒差で追う#13「愛知工科大学 DXL アルト1号」1' 10.664が付け、はやくも注目の対決。

3番手は#88「おんぼろトゥディ」1' 11.499、4番手はもう一台の愛工大#12「愛知工科大学 DXL アルト2号」1' 11.841、5番手#95「KHK アルト」1' 12.151、6番手#10「FAST-OU 岩永 RT アルト」が1' 12.452、7番手#33「Timely アルト IDI」1' 12.708、8番手#5「PROJECT K アルト」1' 12.708と続く。

さらに9番手以下は9番手#6「ロッキーレーシング DXL アルト」1' 14.084、10番手#35「JK レーシング EUROU ビート」1' 14.200、11番手#327「正福ボフアルトバン」1' 14.875、12番手#210「ZEST スピードハート MIRA」1' 16.087、13番手#444「Team YKSR ALTO」1' 19.054、予選最後尾に14番手#28「ブラストヴィヴィオ」1' 25.686。

■序盤

スタート直後に、他クラスのクラッシュがあり仕切り直しとなったが、最初のステイントで首位を行くのは#13「愛知工科大学 DXL アルト1号」、引率の先生方のハッスルぶりも効いてか、序盤のレースを引っ張る。同#12「愛知工科大学 DXL アルト2号」も5位を走行。

2位は#10「FAST-OU 岩永 RT アルト」、3位#33「Timely アルト IDI」、4位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」といったところ。ピットインを行った#28「LIMITLINE トゥディ」は6位。

今回は強豪チームの#100「もらいものビート」や前戦優勝の#410「ACRS Today」が欠場したこともあり、トップグループはほとんどが新規格アルトで占められており、時代の流れを感じる一戦でもあり。

ちなみに今回はクラス14台のうち、10台が新規格、さらに9台がアルトバン(セダン)となっている。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■中盤

中盤のスティントは上位争いが白熱。#13「愛知工科大学 DXL アルト 1 号」を中心に、#10「FAST-OU 岩永 RT アルト」、#33「Timely アルト IDI」に旧規格マシンの#28「LIMITLINE トウディ」が絡んでのトップグループを形成1 Lap ほどの差で激しく争う。

中団グループは#95「KHK アルト」、#12「愛知工科大学 DXL アルト 2 号」、#5「PROJECT K アルト」が 5 位争い。

さらにその下は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、#88「おんぼろトウディ」、#210「ZEST スピードハート MIRA」、#28「ブラストヴィヴィオ」、#327「正福ポプアルトバン」と続く。

#35「JK レーシング EUROU ビート」はスピンの後、白煙を吹くなどマシンの調子が上がらない様子でリタイヤとなる。また、#444「Team YKSR ALTO」もスピンでセーフティーカーを導入させてしまう。

■終盤

残り一時間での各チームの周回数は、#13「愛知工科大学 DXL アルト 1 号」124Lap でトップ。2 位#10「FAST-OU 岩永 RT アルト」が 123Lap、3 位#33「Timely アルト IDI」123Lap、4 位#28「LIMITLINE トウディ」122Lap、5 位#12「愛知工科大学 DXL アルト 2 号」122Lap、6 位#95「KHK アルト」122Lap、優勝争うどころか 6 位までが大混戦。

中団以下は、7 位#5「PROJECT K アルト」120Lap、8 位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」120Lap、9 位#88「おんぼろトウディ」119Lap、10 位#28「ブラストヴィヴィオ」113Lap、#210「ZEST スピードハート MIRA」109Lap、#327「正福ポプアルトバン」99Lap、#444「Team YKSR ALTO」70Lap。

さあ、残り一時間あまり、各チームとも集中力を切らさずに走り切って欲しい。



主流はアルトバン #95



車名から錆がとれた #88



カラーリングが映える #6



NA のヴィヴィオ #29





初出場 #210

■最終結果

長丁場の4時間戦を制したのは、#13「愛知工科大学 DXL アルト1号」、今年のメンバーでは初優勝。さらに記念すべきクラス新規格車初優勝の勲章付き！！2位には1周及ばなかった#10「FAST-OU 岩永 RT アルト」、3位は旧規格マシン#28「LIMITLINE トウディ」が死守。

以下4位#12「愛知工科大学 DXL アルト2号」で愛工大は1-4、表彰台までは29秒だった。

5位#95「KHK アルト」、6位#33「Timely アルト IDI」、#33は黄旗区間追い越しで1周減算、これがなければあるいは・・・7位#5「PROJECT Kアルト」、8位#88「おんぼろトウディ」、9位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、10位#28「ブラストヴィヴィオ」、11位初出場の#210「ZEST スピードハート MIRA」、12位も初出場の#327「正福ポフアルトバン」で12位までが完走。

■総評

開催以来最多の台数がエントリーしたこのクラス、気が付けば新規格車が大半を占め、さらに今大会では初優勝も果たし、マシンの勢力は完全に新規格車に移ったようだ。その主力はHA23型のバンおよびセダンで基本的にはバンだ。近年では営業車でもATを使う企業や事業者が多く、バンとも言えどMTを探すのが難しくなりつつあるときも。

今後、KNNクラスの隆盛に5AMT(AGS)を搭載したアルトの熟成次第とも思える・・・ちなみに今大会の2週間前に行われたK-Meetingではレギュレーションが異なるもののテスト中のHA36V(NA)が12秒台で周回していた。



こちらも初出場 #327



惜しくも完走ならず #444



こちらも完走ならず、残念 #35





見事な3連勝でチャンピオン！ #25

KNCクラス（軽NAのクローズドクラス）

第3戦を#25「アカミネコマル 2トゥディ」がとり、シリーズ争いを一歩リードしたが、#66「VISCANTIトゥディ」との差は10P、まだまだどう転ぶかわからない。ましてや今大会はポイント増量の4時間戦だ。

今回はこの2台に加え、新規格の#56「キャドカーズ☆ミラジジーノ！」、そして初参加となる#55「GARAGE 松山トゥディ」の計4台がエントリー。

ちなみに連勝により#25「アカミネコマル 2トゥディ」のウェイトは40kgとなる、この重さはKNCには厳しいか。

■予選

予選トップは逆転に燃える#66「VISCANTIトゥディ」1'08.745、2番手は#25「アカミネコマル 2トゥディ」1'09.182 やはりウェイトが響いたか。

3番手は#56「キャドカーズ☆ミラジジーノ！」1'09.391、初出場だった前戦より大幅タイムアップ、今回唯一の新規格マシン。4番手は#55「GARAGE 松山トゥディ」1'10.882。

■序盤

予選トップ2は最初のステイットはほぼ同じストラテジーか、まずピットインを敢行する。その間にトップに立つのは#56「キャドカーズ☆ミラジジーノ！」、新規格の利点を生かせばこのまま状走行も可能だ。

#55「GARAGE 松山トゥディ」も初参加とは思えない走りっぷりで、上位勢に食らいつく。

■中盤

中盤も#56「キャドカーズ☆ミラジジーノ！」は上位走行、なんと昨年のチャンピオン#25「アカミネコマル 2トゥディ」とがっぷり四つ、時には従えての堂々のトップを走る。#55「GARAGE 松山トゥディ」も大健闘、実カチーム#66「VISCANTIトゥディ」との3位争いを繰り広げる

■終盤

が好事魔多し、#56「キャドカーズ☆ミラジジーノ！」にピットロード速度違反でドライビングスルーペナルティ、さらに速やかに履行しなかったとして1周減算のペナルティが課せられることに。

同様のピットロード速度違反は#66「VISCANTIトゥディ」にも。他クラスでもそうだったが今大会はペナルティが少し目立つ、特にピットロード速度違反でもつたいのないのもそうだが、安全を確保するためのルールなので、もう一度各自徹底していただきたい。

また、速やかに履行しないと周回数減算などさらに重い処分が課せられるので、ドライバーはメインポストや自車のゼッケン番号など基本的な事柄を確認して、レースに臨んで欲しい。



じじいのなんて言わせません #56



初参加で初表彰台！ #55



章典外という結果 #66

Race Report



■最終結果

ペナルティなどが出たレースだったが、終わってみれば#25「アカミネコマル2トゥディ」が161Lapを走り見事な勝利で、3連勝となった。

2位には#56「キャドカーズ☆ミラジジーノ！」が158Lap、自己最高位で初表彰台、3位は初参加の#55「GARAGE 松山トゥディ」が143Lap。

158Lapを走った#66「VISCANTIトゥディ」は車両規定違反で章典外となった。

■総評

やはり#25「アカミネコマル2トゥディ」の強さが光ったレースであり、シーズンであった。しかしながら第3戦で2位に入ったエッセ、今大会での活躍が光ったミラジジーノなど、ポテンシャルの高い新規格車が出始めており、新たな時代の動きを感じさせる。

なお、本文中にも記したが、今大会はかなりのペナルティが発生した。その多くは不注意からくるものなので、重ねて防止をお願い申し上げます。





ほぼ完ぺき今季 2 勝目！ 総合優勝 #38



ペナルティがもったいない #698



こちらももったいなかった #223

KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

シリーズトップに行く#698「RN698 和泉管 Mira」が 50P、それを追いかける 3 チームが混戦。どこかが抜け出してトップ争いに加わると風雲急を告げる展開になるが・・・4 時間戦で大量ポイントを持ち帰るのはどのチームか。今回は上位を争う 6 台がすべて参加しての熱戦が期待される。

■予選

予選トップは#38「デモリッションエグゼトウディ」1' 05.608、全体の PP を奪い返し、このまま優勝を狙う。2 番手は#223「リンダタイヤショップトウディ」1' 05.927、開幕戦以来の出場だ。3 番手#36「JKレーシングユーロトウディ」1' 06.634、12P 差でランキング 2 位につけており、今回はその差を埋めるチャンス。4 番手に#698「RN698 和泉管 Mira」1' 07.541、ウエイトの 20kg の影響もあるか、はたまた余裕か、ランキングトップはこの位置からのスタート。5 番手に#34「JKガチャピントウディ」1' 07.707がつけ、6 番手#37「JKレーシング EUROU ビート」1' 08.418という予選結果。

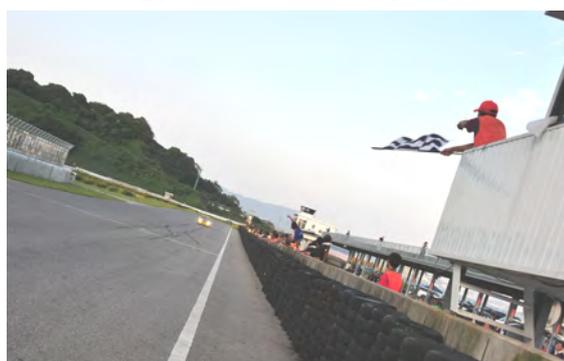
■序盤

レーススタート後いきなりの波乱が待っていた。#37「JKレーシング EUROU ビート」が立体交差下でクラッシュ、赤旗中断で再スタートとなる。そんななかトップ争いを繰り広げるのは#38「デモリッションエグゼトウディ」と#698「RN698 和泉管 Mira」、こちらは前回の優勝で 20kg のウエイト積む。早めの仕掛けで#38「デモリッションエグゼトウディ」がピットイン。こちらは旧規格ならではの作戦か。第 2 集団は#223「リンダタイヤショップトウディ」と#34「JKガチャピントウディ」のバトル、旧規格トウディ同士で負けれない。一方予選 3 番手スタートの#36「JKレーシングユーロトウディ」だが、マシンの不調からか思うように周回が増えない、JK チームに暗雲が垂れ込める。

■中盤

中盤飛ばすのは#38「デモリッションエグゼトウディ」、2 位以下に 2~3 周ほどの差をつけギャップをコントロール。そのトップを追いたいマシンたちはペナルティでペースアップができない。#223「リンダタイヤショップトウディ」はホワイトラインカットのペナルティの実行遅れで 1 周減算、#698「RN698 和泉管 Mira」もピットイン時違反で 3 分ストップ & 実行遅れで 1 周減算、さらにピットロード速度違反 & 実行遅れで 1 周減算と実にもったいない。

で熾烈な争いをしたのは、と。ときおり順位を入れ替えながら先頭争い。それに#37



Race Report

■終盤

残り1時間になってもトップは譲らず#38「デモリッションエグゼトウディ」が130Lapを走り堂々の総合トップ。必死に追い上げる#698「RN698 和泉管 Mira」が126Lapの2位、続いて#223「リンダタイヤショップトウディ」が125Lapで3位、4位には#34「JKガチャピントウディ」も124Lapで迫って切る。#36「JKレーシングユーロトウディ」はピットを出たり入ったりで47Lapにとどまっている。

■最終結果

#38「デモリッションエグゼトウディ」は、ほぼ完ぺきなレース運びで総合優勝。今シーズンの2勝目をマーク。2位には#698「RN698 和泉管 Mira」、ポイント的にはまずまずといったところだが、ペナルティがなければと悔やまれる。

3位は同じくペナルティがもたないかった#223「リンダタイヤショップトウディ」。4位は表彰台まであと1Lapだった#34「JK ガチャピントウディ」、クラッシュとリタイヤとなってしまったチームメイトの分も熱く走ったが、惜しくも4位だった。

■総評

本当に今大会はペナルティが多かった。他クラスでもそうだが、成績を左右するほどのペナルティも、もとをただせば不注意からくるものがほとんどだ。不運といえども防げるものばかりなので...

とはいえ、シリーズ争いがより混戦になったのも事実。トップ2チームの差は10P、最終戦はペナルティ等の無いレースで悔いのないしめくりを願うばかりだ。



孤軍奮闘 #34



序盤から調子が上がらず #36



序盤でクラッシュ #37



あれ、クラス違いますけど...
しかし じゃんけん強いっすね~





チャンピオンへ望みをつないだ！ #93



ペナルティは残念 #330



第2戦に続き表彰台 #392



今回は4位 #112

KTCクラス（軽過給機のクローズドクラス）

3戦して2勝の#330「DIXCEL コンパーノミラ」、第2戦の初優勝から連勝で、いまやシリーズの中心に。それを追いかけるのが#93「藤枝マリンダイビングアルト」で20Pの差。第2戦の無得点が痛かったが、今回は負けるわけにはいかない。クラス唯一のFR車で奮闘する#112「白須賀会カプチーノ」と、第2戦以来の出場となる#392「Zammaers ヴィヴィオ」の計4台がエントリー。

■予選

予選トップは#112「白須賀会カプチーノ」1'08.869、2番手に#330「DIXCEL コンパーノミラ」が1'08.076、連勝による40kgのウエイトがどう響くか。

3番手1'09.988、第2戦では3位表彰台。今回も上位を狙う。4番手に#93「藤枝マリンダイビングアルト」、予選はこの位置から、逆転にかける。

■序盤

序盤は早めにピットに入った#330「DIXCEL コンパーノミラ」が一步下がった戦いを見せる。上位は#112「白須賀会カプチーノ」、#93「藤枝マリンダイビングアルト」。その後ろの#392「Zammaers ヴィヴィオ」も実力者だけに不気味な存在。

■中盤

中盤ではやはり#330「DIXCEL コンパーノミラ」が上がって来た。#93「藤枝マリンダイビングアルト」と僅差の首位争い。表彰台争いも#112「白須賀会カプチーノ」と#392「Zammaers ヴィヴィオ」との間で激しさを増す。

■終盤

終盤において残念ながらこのクラスでもペナルティが多発。#330「DIXCEL コンパーノミラ」はピットロード速度違反、#112「白須賀会カプチーノ」も同様のペナルティ、こちらには実行遅れのため2周減算。

ともあれトップは#330「DIXCEL コンパーノミラ」が上がって来た。#93「藤枝マリンダイビングアルト」とのバトルのようだ。3位争いともども決着が着くか。



2人でコース慣熟

Race Report



■最終結果

勝ったのは#330「DIXCEL コンパーノミラ」と思われたが、最終盤での他クラスマシンのコースアウトによるセーフティカー出動の際のイエローフラッグ時の追い越し違反で1周減算。これにより勝者は#93「藤枝マリンダイビングアルト」。最後に勝敗を分けたのはまたしてもペナルティという結果に。

3位に滑り込んだのは#392「Zammaers ヴィヴィオ」、混乱したレースにあって見事にポディウムまで持ってくるのは流石だ。4位は#112「白須賀会カプチャーノ」、こちらももったいないペナルティがあり、悔しい結果だ。

■総評

ペナルティの件はあるが、チャンピオン争いは白熱化。権利そのものは#330「DIXCEL コンパーノミラ」と#93「藤枝マリンダイビングアルト」の上位2チームに絞られたがそのポイント差は15、最終戦での逆転はあるのか。

マシンのには、#330「DIXCEL コンパーノミラ」は一発の速さではまだ新規格には及んでいないが、もうひとつ引き出しがあるか注目。一方#93「藤枝マリンダイビングアルト」は熟された旧規格マシン、KTCクラスの限界ともいえる5秒台を記録し、速さでチャンピオンに挑む。最終戦はどんな結末が待っているか。





KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

ここまで2勝と順調にポイントを伸ばしてきている#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」、この第4戦でチャンピオンを決めてしまおうかという意気込みで乗り込んできた。対するは#717「Team Jatsun アルト」、KTC からクラスを変えて臨んだシーズン、第3戦ではクラッシュにより優勝は逃したが、予選では全体のPPを獲得するなど速さは十分に上に見せた。

■予選

予選トップは#717「Team Jatsun アルト」1'05.858で連続クラストップ、全体でもフロントローに並ぶ、速さは誰もが認めるレベルに。#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」1'06.048、ウエイトは20kgだ。

■序盤

スタートからこのクラスにも波乱が。#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」がマシントラブル。フロントのハブが割れたとのことで、異常を感じてピットイン、すぐさま修理にかかる。

それにより#717「Team Jatsun アルト」は一人旅。第2スティントには全体の首位にも立つ。



祝！初優勝！！ #717

■中盤

#717「Team Jatsun アルト」は安定した走行。ピットインから1時間強で修理を完了した#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」も戦列に復帰して、レース完走を目指す。トップとの差は50Lapほど、規定周回数クリアが大きな目標だ。ある意味孤独な戦いが始まった。

■終盤

終盤も#717「Team Jatsun アルト」が首位キープ。この時点で#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」はトップから51Lapの差、予想される周回数はギリギリ。遅れた時点で完走には届かなくなる。厳しいバトルが続く。



ギリギリ完走！ #9

■最終結果

最後まで首位をキープした#717「Team Jatsun アルト」が165Lapで優勝。#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」は51Lap遅れの115Lapでチェッカー。実は#717「Team Jatsun アルト」はゴール20分前にピットロード速度違反のペナルティを受け、その実行遅れで1Lap減算の処分を受けていた。これにより、KTOクラスの規定周回数は115Lapとなり、#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」は完走扱いの2位となった。



Race Report

GT-CAR PRODUCE

■総評

今回は各クラスにおいてペナルティが多く見受けられたが、終わってみればこのクラスもペナルティが生んだドラマチックな展開となったのは、少々皮肉なのかもしれない。

だが、それはそれとして Lap 数といういわば内なる敵とのバトルに勝利した形の#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」の高い集中力と現場力には敬意を表したい。

もちろん優勝した#717「Team Jatsun アルト」も見事な初優勝。KNN からスタートしKTC での新規格車初優勝、そして今年から参戦のこのクラスでも優勝と着実にポテンシャルを高めてきたことは素晴らしい。

参加台数こそ少なかったがとも高いレベルでのレース展開は見ごたえのあるものだった。

これでポイント差は 18P、#717「Team Jatsun アルト」の逆転優勝にはギリギリ踏みとどまった格好だ、シーズン最終戦ではどんなバトル、どんなドラマが待っているのだろうか。



このペナルティがドラマを演出！？



今回はこちらがやったね♪



今回はこちらが懸命の修復から復活！！

